

# 千代鈴好発進

# 紙相撲新聞

第157回本場所  
初日～三日目

編集・発行  
日本紙相撲協会

## 千代、綱獲りに向けて3連勝スタート

## 若嶋は1敗、春翔は2敗と追う展開に

〔第一百五十七回本場所初日～三日目〕

暑い夏が終わり、秋の気配を感じる季節となった9月10日、第157回本場所が幕を開けた。

今場所一番の注目は先場所優勝の大関千代鈴の綱獲りなるかだろう。1敗を喫したものの、それ以外の10番は早い相撲で完勝する安定感のある相撲をみせ、今場所も優勝候補の筆頭と言える。

これを迎え撃つ若ノ嶋、春ノ翔の両横綱がそう簡単に連続優勝させてなる

ものかと立ちちはだかる。先を越された感のある大関大神楽もだまっていられないだろう。

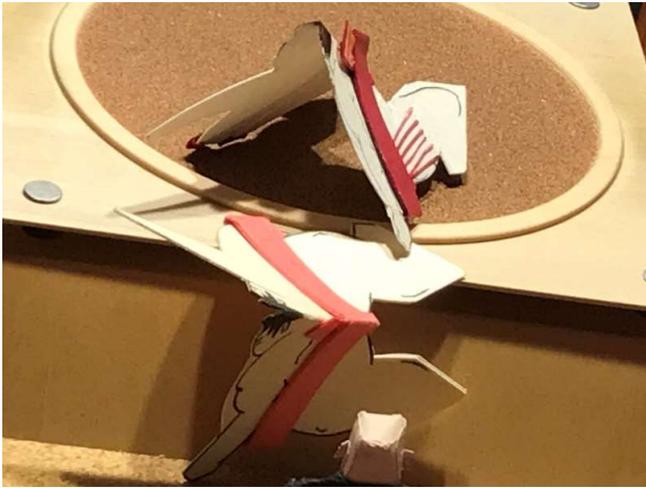
また、三役陣では十両まで落ちてから見事復活した鹿富士が新関脇に、元大関鬼ヶ嶽が小結に返り咲き、先場所に引き続きの活躍が期待される。平幕では、先場所、新入幕で8勝3敗で敢闘賞を受賞した綱乃花が前頭五枚目まで番付を上げ、入幕2場所目の相撲に注目が集まる。

幕内に昇進したのは4人。十両優勝の龍不動は十両優勝を手土産に1場所目から返り咲き、宇治家、磯目、慢と夢ノ花が新入幕を果たした。2人目の幕内力士誕生で、親方の期待も大きく、まず

は幕内での勝ち越しを目指す。今場所も話題盛り沢山の場所で大いに楽しみである。

第157回本場所の土俵は三日目を終えて、大関千代鈴、関脇鹿富士と佐賀ノ海、平幕の綱乃花、喜乃郷、西神門の6人が3連勝とした。一方、横綱若ノ嶋が三日目に月山に敗れ、横綱春ノ翔が初日に鬼ヶ嶽に、三日目に鉄甲に敗れた。

横綱若ノ嶋は2場所振りの東に座り4回目の優勝を目指す。初日は小結玄武岩に取直した後、相撲で左も差されながらも前に出る力強い相撲で好スタートを切ると、二日は大の苦手の小結鬼ヶ嶽を豪快に押し倒して連勝した。今場所の好調さが伺えたが、三日目の押し倒しにまさか出だしとなった。



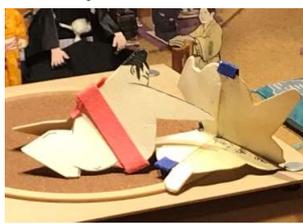
↑二日目、千代鈴は初日のもたついた相撲と一変。月山を一気に寄り切り、不安を一掃。連覇に向けて期待が高まった一番だ。

↓三日目、千代鈴は玄武岩の喉輪攻めをもとせず、正面土俵に一気に運んで押し出し、綱獲りに向けて3連勝と好発進だ。



横綱春ノ翔は先場所は千秋楽に辛くも勝ち越し、場所は桐壺親方が期待する新十両の徳ノ富士との猛稽古として場所を絞って体重を落とすとして場所に臨んだ。

初日は13勝1敗と合口のいい鬼ヶ嶽だったが、先場所の連続2敗目は黒星発進となった。二日目は玄武岩に勝って連敗は免れたが、三日目に先場所敗れた鉄甲に左を差されて寄り切られ、黒星先行の序盤となった。



月山○(押し倒し)●若ノ嶋 若ノ嶋○(押し倒し)●鬼ヶ嶽



今場所、新関脇に昇進した鹿富士。138回に入幕で優勝を飾り、146回に入幕に昇進したものの、その後、十両に陥落。引退も囁かれたが、そこから奮起して先場所10場所振りに返り咲いた小結千代鈴と千秋楽まで優勝争いを演じ、今場所は悲願の関脇の番付に座った。



鬼ヶ嶽○(寄り切り)●大神楽

今場所に期待を持たせた。ところが、三日目に5勝2敗と分のいい鬼ヶ嶽に左差しからの鋭い出足になすべないも敗れた。1敗はしたが負である。

大関大神楽はこれまでの失敗の教訓を守り、稽古はほどほどに主に体調管理に努めて初日を迎えた。初日は月山を完璧な相撲で寄り切ると、二日目も四季嶋を寄り切った連続勝利。



大神楽○(寄り切り)●四季嶋



春ノ翔○(押し倒し)●玄武岩



春ノ翔●(寄り切り)○鉄甲